

## 出られる？ 出れる？

文化庁という、文化に関する仕事を行う、国の機関があります。文化庁は、いろいろな仕事をしていますが、その中の一つに、「国語に関する世論調査」があります。これは、日本語の変化や、新しい言葉について調べる調査です。この調査は毎年行われています。2021年の3月に行われた調査では、約3800人の日本語母語話者が調査に参加しました。

2021年の調査結果を、少しだけ見てみましょう。調査の中には、こんな質問がありました。

次の二つの言い方のうち、あなたが普段使うものはどちらですか？

- 早く出られる？
- 早く出れる？

この2つの文は、「早く出ることができる？」という意味で、可能かどうかを聞く文です。現在、ほとんどの日本語の教科書では、「出る」の正しい可能動詞は「出られる」だと紹介されています。日本の新聞やニュースなどでも、「出られる」が使われています。しかし、調査の結果を見ると、「出られる」を使う人

は約 51%、「出れる」を使う人は約 48%で、ほとんど同じでした。どちらの言葉を使うかは、年齢によっても違うようです。例えば、20 代の人たちのうちの約 70%は「出れる」を選びましたが、60 代では約 40%だけでした。

このように可能動詞の中の「ら」を言わない表現は、「ら抜き言葉」と呼ばれています。この調査では「見られる/見れる」、「来られる/来れる」についても同じような質問がありましたが、どちらも、半分くらいの人が「ら抜き言葉」（見れる、来れる）を使っていました。

ただし、すべての「～られる」という可能動詞が「ら抜き」でよく使われているわけではないようです。以下の文を見てください。

- こんなにたくさんは食べられない。
- こんなにたくさんは食べれない。
- 彼が来るなんて考えられない。
- 彼が来るなんて考えれない。

「食べれない」という「ら抜き言葉」を使う人は全体の約 33%だけでした。

「考えれない」という「ら抜き言葉」を使う人は全体の約 5%しかいませんでした。

どのようなタイプの動詞がよく「ら抜き」になるのかについては、いろいろな意見があります。また、どうして「ら抜き」になるのかについても、いろいろな考え方があります。また、話し言葉や友だちとの SNS などでは「ら抜き言葉」を使い、もう少しかたい場面では「正しい言葉」を使うという傾向もあるようです。今のところ、学校で書くレポートや、仕事で書く書類、たくさんの人の前で発表などでは、「ら抜き言葉」ではなく「正しい」可能動詞を使うことが多いようです。

私は日本語教師として、できるだけ「自然な日本語」を教えたいと思っています。ただ、その「自然な日本語」というのは年々変わっていきます。新しい言葉もどんどん生まれます。例えば「コロナ禍」という言葉は、2020 年までは存在すらしませんでした。毎年行われる「国語に関する世論調査」は、私にとって、日本語の変化や新しい言葉について考えるための、とても良いきっかけになります。

(1195 字)

(2021.9 Written by Junko SATO)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.